

神戸 棧橋	甲南丸	一月廿八日	待遇改善	一、主席料理人を船長と改め、五圓増給す 二、アイスポックス二噸半の處、五噸に増設す 三、甲板部室にベンチレタラを増設す 四、甲板部室にベンチレタラを増設す 五、甲板部室にベンチレタラを増設す 六、甲板部室にベンチレタラを増設す 七、甲板部室にベンチレタラを増設す 八、甲板部室にベンチレタラを増設す 九、甲板部室にベンチレタラを増設す 十、甲板部室にベンチレタラを増設す
三陸 汽船	所有船	二月三日	船内労働条件	協定
三井 物産	社 船	二月九日	船長待遇改善	改善する事を約す
馬場 合資	有明丸	二月十二日	解散手當	一、一年未満二ヶ月、勤続一年を増す毎に二分の一、旅費、十五圓、酒肴料五圓
三陸 汽船	永隆丸	二月十三日	協定給料不實施	實施
日本合同工船	長門丸	二月十六日	解散手當	一、勤続六ヶ月迄一ヶ月、六ヶ月以上一年迄一ヶ月半、一年以上一ヶ月四分の三旅費十五圓
三陸 汽船	小型船八隻	二月十九日	待遇改善	協約締結
正和 汽船	祝丸	二月廿一日	増員要求	臨時乗船火夫一名を本船に變更月額十圓を普通船員全體に支給
川崎 汽船	いんであ丸	二月廿二日	扇風機設置	甲、機部に各一臺宛設置
新興水産	笠戸丸	二月廿七日	勘察加出漁労働条件	協約締結
東洋 汽船	麗洋丸 外六隻	三月二日	増員要求	増員 但し近海に於ても缺員なき場合は敢て減員せず
近海郵海	錫蘭丸	三月五日	増員要求	機關部員一名増員
原商 事	第一眞盛丸	三月十日	解散手當	給料の二ヶ月分以上一年を増す毎に四分の一増、但し五年以上の者は特別手當を支給
同 右	同 右	三月十九日	増員、増給要求	可見一名増員船夫、二名、水夫、二名、油差、一右各員に一圓宛増給
佐藤 國	ほのるる丸	三月廿三日	増給要求	全員に對し最低一圓より最高六圓迄各々増給
川崎 汽船	小四隻船	三月廿三日	主席料理人待遇改善	主席料理人を船長と改正 本給に繰入れる事
南洋 郵船	サマラン丸	三月三十日	石炭換貨	従來二十五錢の處三十五錢に増貨
犬上 汽船	十二札幌丸	三月十七日	出火に依る災害手當 (油差部屋四人)	各自一ヶ月分
川崎 汽船	北米航路各船及近海航路各船	九月初旬	専油混焼より、重油の機部定員三十名減員反對並増員要求	減員撤回、甲板部は水夫一名増員、將來石炭専焼に變更の際は遠洋不定期船は機部十五名、同北米航路は十七名に協定近海航路中は機部一名減員せしを据置くこと、和蘭丸機部一名増員復活

◎賣 船 手 當

船 主	船 名	月 日	解 決 條 項
酒井 汽船	天正丸	五月六日	乗組員はそのまゝ乗船する事、手當は勤続一ヶ月迄一ヶ月以上一年を増す毎に四分の一、増額支給外金一封五百五十圓支給
千歳 汽船	千山丸	五月十七日	六名を除き他は全部引續き乗船、下船者六名に對し一ヶ月と五日分支給
國際 汽船	どうば丸	五月二十日	外に旅費七圓支給
國際 汽船	智利丸	六月十四日	勤続一ヶ月迄一ヶ月四分の一、以上一年を増す毎に四分の一ヶ月増額支給、旅費十二圓
岡田 海運	常昭丸	七月十八日	勤続一ヶ月迄一ヶ月四分の一、以上一年を増す毎に四分の一ヶ月増額支給、旅費二十圓支給 一ヶ月を増す毎に四分の一、一ヶ月を増す毎に半ヶ月増、旅費二十圓支給